

飯田市川本喜八郎人形美術館

人形美術家・川本喜八郎が寄贈した、約200体の人形を収蔵する美術館です。人形浄瑠璃を伝承し、美術劇フェスタが毎年行われる「人形劇のまち飯田」を象徴する施設として、広く利用されています。



人形美術家 ● 川本 喜八郎 (1925-2010)
NHK人形劇「三国志」「平家物語」の人形美術家として広く知られる一方、文楽や能などへの深い造詣から生まれた「道成寺」「火宅」さらに「死者の書」などで人間の本质に迫るアニメーション作品を発表。国内外でゆるぎない評価を得る。人形との対話という創造行為を通じ、人形たちは命を吹き込まれる観者の心の奥底を揺さぶる。かつて川本氏は「人形はその後のためにだけ生まれてきて、演じている時その生命は花ひらき、終わると微かな生命に戻るひたむきな存在」と語った。

三連蔵

りんご並木沿いにあった古い蔵を改装したもので、三連になっている蔵はショップ、ギャラリー、飲食店に活用され市民の交流の場所として親しまれています。また、レストランもあり、飯田の風を感じながらオープンカフェで、ほっとひといきなどができます。



ラウンドアバウト(環状交差点)

大火の復興の際、防火帯として整備された緑豊かな並木通りと中央公園沿いにラウンドアバウトがあります。安全でエコなラウンドアバウトは、都市空間・道路空間の変化を示すシンボルにもなっており、無駄な待ち時間がなく災害時にも強い機能が注目を集めています。市内には吾妻町と東和町の2箇所にあります。



りんご並木のエコハウス

太陽光発電などの最新省エネ機器を装備し、昼夜の寒暖差や風など自然エネルギーを上手に活用した21世紀型住宅。環境に優しい都市づくりをすすめる飯田市を象徴する施設のひとつです。室内は自然が発する温かさにあふれ、エコライフを体感できます。9時~17時まで見学可。会議やイベントにも利用できます。



飯田市立動物園

りんご並木の南端、南アルプスを望む、昭和28年開園の小動物センターの動物園。生息環境を再現したペンギン、コンドル、シカ・カモシカの展示や、動物たちと触れ合える「ふれあい広場」が人気です。お気軽に、おいでんしょ。【入園無料】



街は出会いとふれあいの舞台

昭和54年「人形劇カーニバル」として産声を上げた祭典は、年を重ねるにしたがい規模を増し、今では「人形劇のまち飯田」を世界中に発信するシンポイベントに成長しました。数千名の人形劇人が飯田に集い、200を越える演劇が各所で上演され、市内は人形劇一色に彩られます。

いい人形劇フェスタ

人形劇フェスタは市民と劇人が共同で創り上げる文化運動として歩んできました。この文化運動を推進したのが「地域分散方式の公演」です。いわゆるホール集中公演ではなく、市内の学校や公民館などの公共施設を使って、広くこまかく分散的に行うことで、人形劇は面としての広がりをもちました。

今では、国内最大の人形劇の祭典となり、日本はもとより世界各国から人形劇人が集い、パフォーマンスを繰り広げます。観る人、演じる人が一体となって楽しい時を共有します。



飯田の大火からの復興

昭和22年4月に発生した「飯田の大火」は、城下町の古い面影を残す市街地の3分の2を焼き尽くしました。復興に向け、防火用道路として「裏界線」が設けられ、防火帯道路の中央には、「自分たちの手で美しい町をつくらう」という地元中学生の発案に基づいてりんごの木が植えられました。

りんご並木

札幌の街路樹の美しさを、校長から聞いた飯田東中学校の生徒たちは、飯田にも美しい「美なる街路樹を」と考え、昭和28年、40本のりんごの苗木が生徒達の手によって植えられました。春は可憐な白い花が並木を彩り、秋には真っ赤に実ったりんごが行き交う人の目を惹きつけます。りんごの木の手入れは、現在も飯田東中学校の生徒たちが行っています。周囲には各種店舗が並び、定期的にイベントも行われ、市のまちづくりの象徴としても欠かせない存在です。

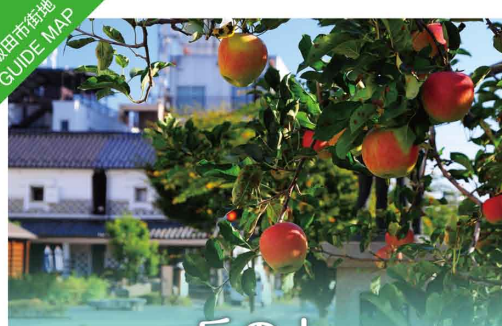


お問い合わせ先

まちなかインフォメーションセンター
飯田市観光課・飯田観光協会
長野県飯田市本町1丁目2
TEL.0265-22-4851 FAX.0265-22-4567

飯田駅観光案内所
長野県飯田市飯田駅
TEL.0265-52-2946 FAX.0265-48-5151

●長野県南部飯田市他の旅行情報・温泉や宿泊等の観光ガイド
南信州ナビ 検索 http://www.ii-s.org/



丘の上
散策マップ



「丘の上」の愛称で呼ばれる、飯田駅を中心とする市街地は、飯田城の城下町として古くから栄えた歴史ある地域です。城下町の面影を残す甚盤目状の道路と、昭和二十二年の大火後に造られた防火帯の機能を七つ、「りんご並木」「裏界線」が特徴といえます。また、「りんご並木」周辺は、市民の憩いの場となっていて、周辺には飯田市立動物園、飯田市川本喜八郎人形美術館、飯田市美術館などの施設が集積しています。



飯田市美術博物館

飯田城二の丸跡に市政50周年を記念して建設された美術博物館。昭和63年に開館。菱田春草の作品の収蔵と展示、伊那谷の美術・自然・歴史・民俗の紹介があります。南アルプスをイメージした斬新な外観は飯田の文化発信拠点として、市民に親しまれています。また、館内にあるプラネタリウム「天歩」も人気です。



日本画家 ● 菱田 春草 (1874-1911)



明治時代の日本画家、菱田春草は岡倉天心が興した日本美術院に参加、盟友の横山大観らと日本画の革新をめざしたことで有名です。春草の代表作「落葉」など何点かは国の重要文化財になっています。38才という若さで逝った春草の作品には飯田の風土が深く関わっていました。

菱田春草 筆「菊慈童」(きくじどう)→飯田市美術博物館所蔵 明治33年(1900年) 絹本着色



赤門

飯田城の遺構「桜丸御門(1754年)」。赤いベンガラが塗られていたことから「赤門」と呼ばれています。大きさや形など、大名の格式に応じて幕府によって細かく定められていた赤門が2万石の飯田藩に許されたのは、10代藩主姫親善が將軍の御側用人と老中格を兼ね、高い官位を与えられたからだと考えられます。



和菓子探訪

城下町として栄えた中心市街地(丘の上)には、老舗の和菓子店が軒を連ねています。風趣山山麓の名水「猿橋の泉」は、茶の湯文化を形成し、茶房と共に和菓子の文化が広がりました。各店、自慢の和菓子・半生菓子を食べ歩くのも丘の上の楽しみ方のひとつです。



裏界線

裏界線は昭和22年の大火の後、防火道路として造られた幅2メートル程の道です。家並みを貫く裏界線は表通りと表通りの間にのびていますが、赤提灯があったり、子どもたちの遊び場であったりまちの風情を感じる不思議な道です。その気になって探せばあちこちにあなたの飯田を発見できるかもしれません。



名桜と寺院

城下町の形成のために配置された歴史を持つ寺院。ここには、樹齢300年以上の老桜をはじめ樹形の美しい名桜が多く残されています。これらの桜は、地域の人々によって大切に守られ保存されています。その桜にまつわる歴史物語や生活との結びつきなど「桜守」と称する案内人がご案内をしています。





WEST AREA

EAST AREA

WEST AREA

EAST AREA

300m 250m 200m 150m 100m 50m 0m